

優秀賞

足元革命

藤本 雅成（社会人：大阪府）

「足元革命」

— 街が、あなたを呼んでいる —

あなたは、自分の街を本当に知っているか。

私が住む大阪・泉佐野市日根野には、鎌倉時代から続く荘園遺跡がある。国宝の多宝塔がある。秀吉の戦火を生き延びた神社がある。それなのに私は、一度もその門をくぐったことがなかった。「近所だから」——その一言が、長年にわたって好奇心にフタをし続けていた。

これは位置情報を使った探索ゲームだ。スマートフォンを持って実際に街を歩き、GPS が歴史スポットを感知するとミッションが発生する。しかしここからが、普通の位置情報ゲームとは次元が違う。

ミッションポイントに触れた瞬間——視界が暗転し、あなたは別の人間になる。鎌倉時代、日根荘の水路を掘り続ける農民。炎に包まれる社殿の前に立つ神官。荘園の命運を握る九条家の貴族。五感ごと過去に引き込まれる、これが魂のバトンだ。

そして憑依した先で、選択が迫られる。「水路をここに引くか、あそこに引くか」「社殿を捨てて逃げるか、最後まで守るか」——プレイヤーの決断が歴史を分岐させる。正解はない。しかしその選択の重さが、リアルな歴史への敬意を生む。憑依から現実に戻ったとき、目の前の石碑や鳥居は、もう以前と同じには見えない。

さらに体験した記憶や地元の証言を投稿すれば、それが次の誰かのミッションになる。市民が街を育て、街が市民を育てる。その循環が、新たな産業革命の火種だ。

立ち上がれ、市民。魂のバトンは、あなたを待っている。

「ゲームのアイデアおよびテーマは自身の実体験をもとに発案しました。説明文の文章構成と表現の補助に Claude（Anthropic 社の生成 AI）を使用しました。」